

A.N.N.B.B.F. 2022年 第66回 全日本ボディビルディング選手権大会

第3回 関西ボディビルディング選手権大会

令和4年10月10日(月・祝) 兵庫県神戸市・神戸ポートオアシス

第19回 九州ボディビルディング選手権大会

第39回 東九州ボディビルディング選手権大会

令和4年9月11日(日)

宮崎県日南市・南郷ハートフルセンター

第39回 福岡ボディビルディング選手権大会

第18回 鹿児島ボディビルディング選手権大会

令和4年8月28日(日)

福岡県北九州市・コムシティ7F 子どもの館ホール



'22メンズボディビルオーバーオール
2位 小西 幸樹

'22メンズボディビルオーバーオール
優勝 大林 孝成

'22メンズボディビルオーバーオール
3位 長友 勇樹

'22 ヌンス 70 ジーク
優勝 笠井 大輔

'22 ウィメンズボディシェイブ
優勝 中山 正子

'22 メンズボディビルオーバー60
優勝 山田 義徳

'22 メンズボディビルオーバー70
優勝 田浦 清則

理事長挨拶



特定非営利活動法人
全日本 ナチュラル ボディビルディング 連盟
理事長 / 審査委員会委員長
大会会長
鮫島 康夫

2022年第66回全日本ボディビルディング選手権大会・第3回関西ボディビルディング選手権大会を兵庫県神戸市・神戸ポートオアシスで開催致しました。

新型コロナウイルス感染症防止の大変な時期で感染防止対策には最大の注意を払い対処致しました。このコロナ禍の中、出場選手の確保も大変でしたが、本連盟の先輩達が65年間、毎年欠かさず開催し、築き上げて来た全日本大会の歴史を今年度も皆様の御協力の下、継続し開催出来ました。私共の連盟の歴史は、日本においてボディビルディングが知られ始めた1954年(昭和29年)に関西の地において発足し現在、北は北海道から南は沖縄まで会員の加盟があり、68年の歴史と伝統を誇ります。又、本連盟の理念はボディビルディングを芸術性の高いスポーツ競技として捉え、何のスポーツにもルールがあるように本連盟が主催する公認選手権大会に出場する選手はスポーツマン精神にのっとり遵守する共通のルールがあります。それは「ドーピング禁止です。」反ドーピングの理念の下、薬物など一切の使用を認めません。3ない法則として過去(使用した事がない)・現在(使用していない)・未来(これからも使用しない)ナチュラル100%の選手達の集まりです。毎年ドーピングテスト(尿検査)を実施しています。

審査基準

ボディビル

- ★全身のバランス、プロポーション。
- ★肌の色、艶。
- ★バルク。(筋肉の量)
- ★ディフィニション。(筋肉の明確、鮮明度)
- ★カット。(筋肉の切れ、筋繊維の走向)
- ★セパレーション。(ひとつひとつの筋肉の輪郭、別れ目)
- ★表現力、スポーツマンマナー。
- ★ポーズの上手さ、曲とのマッチ、リズム感など総合的に審査。

フィジーク

- ★全身のバランス、プロポーション。
- ★筋肉の密度とカット、セパレーション。
- ★ステージング。(ポーズの上手さ、曲とのマッチ、表情)
- ★トータルパッケージでのかっこ良さなど総合的に審査。

ボディシェイプ

全体的

- ★レジスタンストレーニングで全身を鍛え、マッスルだけでなく絞り上げて脂肪の薄いシェイプされたメリハリのある身体。
- ★アウトラインはバスト、ウエスト、ヒップで形成されるカービーなS字ラインを表現。
- ★ポーズの上手さ、曲とのマッチ、リズム感、笑顔と目力によるアピールなど総合的に審査。

部位的

- ★腹-脂肪のない細いウエストと腹筋のセパレーション(6パック)。
- ★肩-前後の厚みと丸みで外側へ大きく張り出した三角筋。
- ★腕-上腕二頭筋、上腕三頭筋による腕のメリハリ。
- ★背-広背筋の広がり凹凸の見えるVシェイプ(逆三角形)。
- ★臀-丸く引き締まり盛り上がったゆるみのないヒップ。
- ★脚-厚み、盛り上がりがあり、薄らとカットの見える引き締まったレッグライン。

(審査指導委員会委員長 鮫島康夫 の見解)

審査方法

ボディビル・ボディシェイプ

- ★プレジャッジでは①リラクスポーズ、②規定ポーズを、ファイナルでは③フリーポーズを審査。
- ★リラクスポーズ(フロント、レフトサイド、バック、ライトサイド)の比較審査。
- ★規定ポーズ(ボディビル・9ポーズ、ボディシェイプ・6ポーズ)の比較審査。
- ★ファイナルでのフリーポーズ(自分のオリジナルな持曲で1分30秒以内のポーズ)の審査。
- ★各クラスで1番良いと思う選手を1、以下2、3、…と点数を入れ各審査員の合計点で点数が低い選手が1位、以下2位、3位…とする。

フィジーク

- ★プレジャッジでは①規定ポーズを、ファイナルでは②フリーポーズを審査。
- ★規定ポーズ(3ポーズ)の比較審査。
- ★ファイナルでのフリーポーズ(自分のオリジナルな持曲で1分以内のポーズ)の審査。
- ★ポーズを決めた時は片手は必ず腰に添える。
- ★各クラスで1番良いと思う選手を1、以下2、3、…と点数を入れ各審査員の合計点で点数が低い選手が1位、以下2位、3位…とする。

上記のようなポイントについて審査を致します。
(審査指導委員会)

本年度より全日本ボディビルディング選手権大会 メンズ ボディビル オーバーオールとメンズ フィジークのカテゴリーは世界ナチュラルボディビルディング連盟(WNBF)のプロ資格認定の大会となります。

(ウィメンズ ボディシェイプは出場選手10名に満たなかった為認定なし)

優勝者はWNBFのドーピングテスト(尿検査)とポリグラフテスト(嘘発見器)の2つのテストをパスする事で正式にWNBFプロカードが授与されます。

各クラスの入賞者・審査採点詳細

審査員の点数表の見方

- ★各選手の最高点数と最低点数を1つずつカットし合計点を出す。但、審査員数が6名以上の場合は2つずつカット。
- ★総合計点数が同点数の場合、最高点数、最低点数のカット無しの点数で決定。
- ★最高点数、最低点数のカット無しの点数でも同点数の場合、最終決定は審査委員長の採点を有利として順位を決定。

全日本メンズボディビルオーバーオール

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	井上	合計
	選手氏名							
優勝	大林孝成(奈良)		2	1	1	2	1	4
2位	小西幸樹(滋賀)		1	3	2	1	2	5
3位	長友勇樹(山口)		3	2	3	3	3	9
4位	寺井貴之(東京)		4	4	4	5	5	13
5位	吉椿秀生(福岡)		5	5	6	4	4	14
6位	真野朋之(広島)		6	6	5	6	6	18
7位	大元聖人(兵庫)		7	9	7	7	7	21
8位	中尾亮太(大阪)		8	8	8	8	8	24
9位	鳥谷彰(福岡)		9	7	9	9	9	27

ファイナル

		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	井上	合計	総合計
		2	2	1	2	1	5	
		1	1	2	1	2	4	9 ⁽¹⁶⁾
		3	3	3	3	3	9	18
		4	4	4	5	5	13	26
		5	5	5	4	4	14	28
		6	6	6	7	6	18	36
		7	9	7	6	7	21	42
		8	8	8	8	8	24	48
		9	7	9	9	9	27	54

★同点数 優勝 大林 2位 小西 (最高点数、最低点数のカット無の点数で決定)

全日本ウィメンズボディシェイプ

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	井上	合計
	選手氏名							
優勝	中山正子(宮崎)		1	1	1	1	1	3
2位	河野幸代(宮崎)		2	2	2	2	2	6

ファイナル

		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	井上	合計	総合計
		1	1	1	1	1	3	
		2	2	2	2	2	6	12

全日本メンズフィジーク

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	井上	合計
	選手氏名							
優勝	笠井大輔(大阪)		4	4	1	2	2	8
2位	崎田勝紀(宮崎)		3	2	7	3	1	8
3位	ロマドン・サフルディン(京都)		5	3	4	1	3	10
4位	池田将教(千葉)		1	9	2	8	5	15
5位	ウェイクン・ペン(香港)		2	1	5	7	8	14
6位	甲斐文雄(宮崎)		6	5	6	5	6	17
7位	シュウ・シンギョウ(大阪)		7	7	3	6	4	17
8位	川元翼(宮崎)		8	6	8	4	7	21
9位	藤森諒兵(熊本)		10	11	9	9	10	29
10位	瀬ノ口太郎(宮崎)		9	8	11	10	11	30
11位	オウ・ホウミン(兵庫)		11	10	10	11	9	31

ファイナル

		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	井上	合計	総合計
		4	4	1	1	2	7	
		3	6	6	2	1	11	19
		5	3	4	5	3	12	22
		1	5	2	8	5	12	27
		2	1	7	7	8	16	30
		6	2	5	4	6	15	32
		7	7	3	6	4	17	34
		8	8	8	3	7	23	44
		10	10	9	9	9	28	57
		9	9	10	10	10	29	59

全日本 メンズ ボディビル オーバー60

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎 (幸)	壽崎 (道)	中島	井上	合 計
	選手氏名							
優勝	山田 義徳 (宮崎)		1	1	1	1	1	3
2位	松永 榮八郎 (福岡)		2	2	2	2	2	6
3位	関 一 志 (広島)		3	4	3	3	3	9
4位	平 良 光 (沖縄)		5	5	4	4	4	13
5位	細 矢 洋 (群馬)		4	3	5	5	5	14

ファイナル

鮫島	壽崎 (幸)	壽崎 (道)	中島	井上	合 計	総合計
1	1	1	1	1	3	6
3	2	2	3	2	7	13
2	3	3	2	3	8	17
4	5	4	4	4	12	25
5	4	5	5	5	15	29

全日本 メンズ ボディビル オーバー70

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎 (幸)	壽崎 (道)	中島	井上	合 計
	選手氏名							
優勝	田 浦 清 則 (埼玉)		1	1	1	1	1	3
2位	中 嶋 章 雄 (東京)		2	2	2	2	2	6

ファイナル

鮫島	壽崎 (幸)	壽崎 (道)	中島	井上	合 計	総合計
1	1	1	1	1	3	6
2	2	2	2	2	6	12

全日本 メンズ ボディビル オーバーオール

大林、小西 両選手、僅差の争い。審査も二分され同点表で最高点数、最低点数のカット無し
の点数で、わずか1点差で大林選手に軍配上る。

優勝 大林 孝 成 (32歳・奈良)

2年前の準優勝選手。プロポーション、バランスと、バルク、デフィニション、カット共に
良く、又、実際より体が大きく見えスケールの大きさを感じさせる選手。腹直筋も6パックに
割れ大腿部のバルク、カット共に良かった。バックポーズでは広背筋の広がりやカット、大殿
筋、ハムストリングスと細やかなカットも有り、圧感であった。優勝が決まった瞬間、感極まっ
て泣き崩れる場面も見られ大会へ向けてのトレーニング調整、準備、など精神面でも苦しい闘
いであった事を物語っている。

2位 小西 幸 樹 (49歳・滋賀)

本連盟初出場。元JPCのチャンピオン。バルク、デフィニション、カットと良く大林選手と
互角の闘いだった。筋量も十分過ぎる位で腹直筋も深く割れ込み特に大腿部は正面の大腿直筋、
内側広筋、外側広筋と側面の大腿四頭筋とハムストリングスの境目のカットと群を抜いており、
特にバックポーズでの大殿筋、ハムストリングス、下腿の腓復筋の逆ハート型も出ており圧感
であった。絞るポーズでは大林選手より優っていたが、欲を言えば肌をもう少し黒くしてい
たら体の立体感、全身のセパレーション、細やかなカットが浮き出て、筋肉の密度の高さをさら
に感じさせられたと思う。来年はカラーリングをしっかりしてほしい。

3位 長 友 勇 樹 (29歳・山口)

プロポーションが良く、上半身、下半身とこれと言った欠点もなくバランス良くまとまっ
ていた。バックポーズはリラックス、規定とシルエットが良く、広背筋の広がりも良かった。も
う少しの絞り込みと、肌をもっと黒くしていたら迫力が増し、上位2選手と互角に闘えたと思
う。今回ベストポージャー賞の表彰はなかったが、私の審査採点評ではベストポージャーだった。

4位 寺井 貴之 (49歳・東京)

調整良く絞り込んでおりバランスも良かった。上腕部のバルク、腹直筋のカット大腿部のバルク、カット共に良かった。バックポーズでの広背筋の広がりが多い。ポージングで気になる所がダブルバイセプス時の肘の位置を高くラットスプレッドでの手の握りこぶしの位置が高すぎるので腰の位置へ、サイドポーズでの後ろへ引いた足の踵を上げたほうが見ばえの良いポーズになるので、ポージングの練習も積み重ねてほしい。

5位 吉椿 秀生 (47歳・福岡)

調整良く絞り込んで、腹直筋も6パックに割れ込み、前鋸筋のカットも良く、バックポーズでの広背筋の広がりも良かった。なで肩で肩幅が狭く見えるので肩回りを1回り、バルクアップを望む、又、大腿部のカットが多い。

6位 真野 朋之 (47歳・広島)

調整良く絞り込んでおり、大腿部は内側広筋、外側広筋とカットがあり、腹直筋も6パックに割れ、前鋸筋共に良くマスキュラーポーズでの僧帽筋も目を引きつけた。毎年総評で指摘している全体的に1回りのバルクアップと、特に三角筋のバルクアップ、バックポーズでの広背筋の広がりが多い。

7位 大元 聖人 (26歳・兵庫)

プロポーション、バランスと良く、腹直筋も6パックに割れ込みポージングも上手で期待される選手。全体的に細身なので今後、1回り、2回りのバルクアップを望む。

8位 中尾 亮太 (23歳・大阪)

バランス良くまとまっており大腿筋のバルク、バックポーズでの広背筋の広がりが良かった。今後更なるバルクアップとカットが多い。来年は調整良くして再チャレンジ。

9位 鳥谷 彰 (35歳・福岡)

調整が悪く絞りが甘く、肌も白かった。大腿部はバルクは十分だったがカットが出なかった。審査委員会からヘアスタイルで一言物申す。パフォーマンスの為にヘアスタイルだと思うが、ボディビルディングは芸術性の高いスポーツ競技ではあるが、選手権大会です。ファッションショーではありません。

全日本 ウィメンズ ボディシェイプ

中山、貫禄の優勝

優勝 中山 正子 (56歳・宮崎)

バランスが良く、腹直筋、大腿部のカットは見られたが、昨年と比べ調整が少し甘く感じられた。元来のポージングが上手なので、経験と実績でうまくカバー出来た。バックポーズでの広背筋の広がりなどは昨年よりも更に良くなっていた。来年は3連覇へ挑戦！！

2位 河野 幸代 (55歳・宮崎)

ウエストが細いので腹直筋のセパレーション(6パック)と肩の前後の厚みと丸み、バックポーズでの広背筋の広がりが多い。又、サイドポーズでは上半身を少しひねりヒップからウエスト、広背筋へのS字ラインを強調する事。プロポーションが良いのでレジスタンストレーニングで鍛え上げ大会出場の経験を積み重ねれば更に良くなると思う。

大混戦、僅差の争い。

優勝 笠井 大輔 (23歳・大阪)

プロポーション、バランスと共に、良くまとまったスケールの大きい選手。腹直筋も6パックに割れ前鋸筋もカットが出ていた。又、バックスタンスでの広背筋の広がりも良くポージングも上手だった。欲を言えばもう1絞りあれば更に良かったと思う。

2位 崎田 勝紀 (41歳・宮崎)

今年のチャンピオンだが絞り過ぎか、全身のハリが無くだいぶ細身に見えた。腹直筋は6パックに割れてはいたが絞った割には昨年よりも甘く感じた。ポージングは元来上手で曲とのマッチ、表現力も良かった。

3位 ロマドン・サフルディン (26歳・京都)

調整良く、絞り込んでいた。腹直筋は6パックに割れ込み、前鋸筋と共にカットがあった。バックスタンスでの広背筋の広がりや三角筋後部のバルク、カットと目を引き付けられた。

4位 池田 将教 (24歳・千葉)

肌の色も良く、三角筋のバルク、腹直筋、前鋸筋は、カットがありバックスタンスでの広背筋の広がりも良く目を引き付けられた。スケールの大きい選手でもっと上位へ入賞してもおかしくなかった。

5位 ウェイクン・ペン (28歳・香港)

肩幅が広く、プロポーションが良くバックスタンスでの広背筋の広がりなど目を引き付けられた。スケールも大きくもっと高評価を受けてもおかしくなかった。

6位 甲斐 文雄 (48歳・宮崎)

だいぶ絞り込んで来たが更なる絞りがほしい感じだった。腹直筋は6パックに割れ前鋸筋共にカットがあり、バックスタンスでの広背筋の広がりも良かったが、元来ウエストが太いので更なる腹直筋のカット、広背筋の広がりがほしい。又、三角筋の前部、中間、後部と1回りのバルクアップがほしい。

7位 シュウ・シンギョウ (24歳・大阪)

バランス良くまとまっており、バックスタンスでの広背筋の広がりも良かった。欲を言えば肌をもっと黒くして、もっとアピール性を出してほしかった。

8位 川 元 翼 (29歳・宮崎)

調整が甘く感じた。昨年と比べ腹直筋もカットはあったが完璧ではなく、もう1絞りほしかった。全体的に細身なので今後大胸筋、三角筋のバルクアップを望む。

9位 藤森 諒兵 (34歳・熊本)

全体的に細身に見えるので、全身をもう1回りのバルクアップ。特に肩回りをバルクアップ。

10位 瀬之口 太郎 (28歳・宮崎)

腹直筋はカットもあったが、全体的にもう1絞りほしかった。今後、肩回りのバルクアップが望まれる。

全日本 メンズ ボディビル オーバー 60

山田、貫禄の優勝

優勝 山田 義徳 (62歳・宮崎)

オーバーオールで常に上位入賞を重ねてきたが、今年はオーバー 60 で出場。全体的に良くまとまって、これと言って欠点はなく、例年のごとく腹直筋は6パックに割れており前鋸筋共に良かったが、きびしく批評すると昨年より絞りが少し甘い感じがあった。又、以前より気になっていたフロントでのバイセプスのポーズで上腕部はバルクもあり迫力があったが、欲を言えば握り拳が前を向いているのを手首を後へひねる事で上腕二頭筋の長頭のピークと長頭、短頭の境目、又、二頭筋と三頭筋の分れ目のカットが更に浮き出て迫力が増すと思う。

2位 松永 榮八郎 (69歳・福岡)

肌も黒くして、特長である大腿部、腹直筋、前鋸筋のカットも健在であった。又、ポーズを決める時はまず大腿部を強調してからポーズをとったらもっと迫力が増すと思う。関選手との争いになったがバルクと細やかなカットで一歩リード。

3位 関 一 志 (68歳・広島)

全体的に細身に見えるが、プロポジションが良く、調整良く絞り込んでいた。大腿部は大腿直筋、内側広筋、外側広筋、内側の縫工筋とカットがあり、腹直筋も6パックに割れていた。又、バックポーズでの広背筋の広がりも良かった。松永選手との比較審査ではだいぶ悩まされたが、バルク、カット共に僅差で勝敗が分れた。

4位 平 良 光 (65歳・沖縄)

だいぶ絞り込んで、肌も黒く、腹直筋のカットも有、年々良くなっている。欲を言えば三角筋のバルクアップとバックポーズでの広背筋の広がりがほしい。

5位 細 矢 洋 (61歳・群馬)

バルクとカットのどちらを優先するかでいつも悩ませる選手。上腕部の太さ、広背筋の厚みと広がり、大腿部は圧倒的なバルクがあるので、思い切り絞り込んで調整してほしい。腹直筋と大腿部のカットが浮き出て来たらもっと上位で争える。フリーポーズではポージングを流さないで決めたら止める。ダブルバイセプスのポーズでは前かがみにならず肘を後ろへ引くなどポージングの研究が必要。

全日本 メンズ ボディビル オーバー 70

田浦、念願の優勝

優勝 田浦 清則 (73歳・埼玉)

プロポジションが良く肩幅も広く、バックポーズでは広背筋の広がり三角筋後部のバルク、カット共に良く、又、下腿部の腓腹筋の逆ハート形も見えていた。

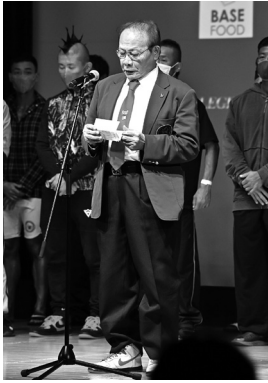
2位 中嶋 章雄 (73歳・東京)

昨年度のチャンピオン。バルクは十分で大腿部は前面の大腿直筋、内側は縫工筋とカット出していたが、もう少しのカットがほしかった。今後、三角筋のバルクアップがほしい。

(大会総評 審査指導委員会委員長 鮫島康夫)

大会写真

全日本 メンズ ボディビル オーバーオール



理事長・大会会長挨拶



表彰式



選手宣誓



優勝 大林孝成



2位 小西幸樹



3位 長友勇樹



4位 寺井貴之



5位 吉椿秀生



6位 真野朋之

全日本 ウィメンズ ボディシェイプ



優勝 中山正子



表彰式



2位 河野幸代

全日本 メンズ フィジーク



表彰式



優勝 笠井大樹



2位 崎田勝紀



3位 ロドン・サフルディン

全日本 メンズボディビル オーバー60



優勝 山田 義徳



ポーズダウン



2位 松永 榮八郎



表彰式

全日本 メンズボディビル オーバー70



3位 関 一志



優勝 田浦 清則



2位 中嶋 章雄

関西 メンズ ボディビル

プレジャッジ

順位	審査員氏名	合計
	選手氏名	
優勝	小西幸樹	3
2位	山田義徳	7
3位	寺井貴之	10
4位	池田将教	11
5位	吉椿秀生	15
6位	真野朋之	18
7位	中尾亮太	21

ファイナル

審査員氏名	合計							総合計	
選手氏名	較島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	清尾	峯岸	原		
小西幸樹	1	1	1	1	1	1	1	3	6
山田義徳	2	2	2	2	3	4	4	7	13
寺井貴之	3	4	3	5	5	2	2	10	19
池田将教	4	3	4	4	4	3	3	11	21
吉椿秀生	5	6	5	3	2	6	5	15	30
真野朋之	6	5	6	6	6	5	6	18	36
中尾亮太	7	7	7	7	7	7	7	21	42



優勝 小西幸樹



2位 山田義徳



3位 寺井貴之

関西 メンズ フィジーク

プレジャッジ

順位	審査員氏名	合計
	選手氏名	
優勝	ロンドン・サフルディン	5
2位	笠井大輔	4
3位	甲斐文雄	9
4位	シュウ・シンギョウ	14
5位	川元翼	13
6位	瀬之口太郎	17
7位	オウ・ハウミン	21
8位	鹿島卓哉	24

ファイナル

審査員氏名	合計							総合計	
選手氏名	較島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	清尾	峯岸	原		
ロンドン・サフルディン	2	2	3	4	1	1	1	5	9 (29)
笠井大輔	1	1	1	1	2	6	4	4	9 (34)
甲斐文雄	3	3	4	3	5	3	2	9	18
シュウ・シンギョウ	5	8	2	6	4	2	5	14	24
川元翼	6	5	5	2	3	5	3	13	26
瀬之口太郎	4	6	6	5	6	4	7	17	35
オウ・ハウミン	7	4	7	7	7	7	6	21	42
鹿島卓哉	8	7	8	8	8	8	8	24	48

☆同点数 優勝 ロンドン・サフルディン 2位 笠井 (最高点数、最低点数のカット無の点数で決定)



優勝 ロンドン・サフルディン



2位 笠井大輔



3位 甲斐文雄

関西 ウィメンズ ビキニ

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	清尾	峯岸	原	合計
	選手氏名									
優勝	水野美穂		1	1	1	1	1	1	1	3
2位	中原蒼葉		2	2	3	2	2	2	2	6
3位	森川藍子		3	4	2	3	3	3	5	9
4位	長野幸代		4	3	4	4	4	5	4	12
5位	後藤裕美子		5	5	5	5	5	4	3	15

ファイナル

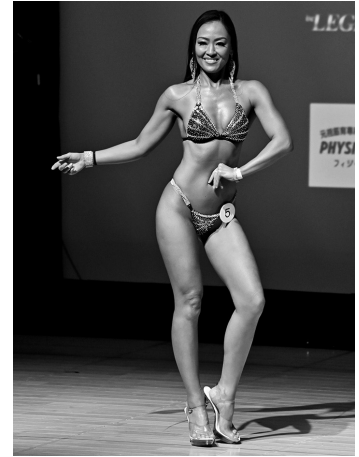
鮫島	壽崎(幸)	壽崎(道)	中島	清尾	峯岸	原	合計	総合計
1	1	1	1	1	1	1	3	9
3	3	2	3	2	2	2	7	13
2	2	4	2	3	3	4	8	17
4	4	3	4	4	5	5	12	24
5	5	5	5	5	4	3	15	30



優勝 水野美穂



2位 中原蒼葉



3位 森川藍子

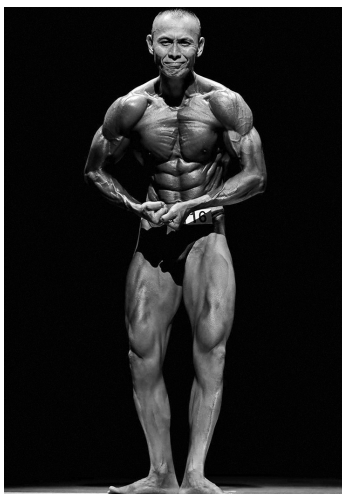
九州 メンズ ボディビル

プレジャッジ

順位	審査員氏名		鮫島	壽崎(幸)	山田	中島	川名	井上	清尾	合計
	選手氏名									
優勝	相星徹弥		1	1	1	1	1	1	1	3
2位	マハト・アיתיヤ・ケル		2	2	3	2	2	2	2	6
3位	田中ルーク		4	4	2	3	3	3	3	9
4位	植田修平		3	3	4	4	4	4	4	12
5位	山崎巽多郎		6	5	6	5	5	5	5	15
6位	田中章一郎		5	6	5	6	6	6	6	18
7位	横山雅幸		7	7	7	7	7	7	7	21

ファイナル

鮫島	壽崎(幸)	山田	中島	川名	井上	清尾	合計	総合計
1	1	1	1	1	1	1	3	6
2	2	3	2	2	2	2	6	12
4	4	2	3	3	3	3	9	18
3	3	4	4	4	4	4	12	24
6	5	6	5	5	5	5	15	30
5	6	5	6	6	6	6	18	36
7	7	7	7	7	7	7	21	42



優勝 相星徹弥



2位 マハト・アיתיヤ・ケル



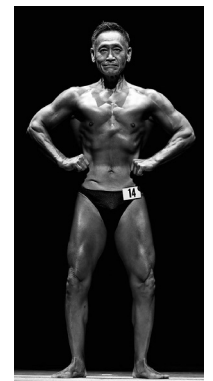
3位 田中ルーク



4位 植田修平



5位 山崎巽多郎



6位 田中章一郎

東九州 メンズ フィジーク

プレジャッジ

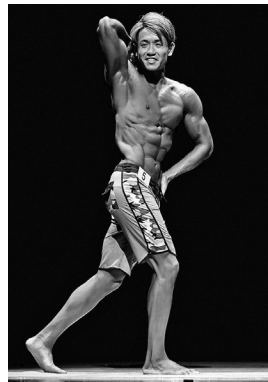
順位	審査員氏名	鮫島	壽崎 (幸)	山田	中島	川名	井上	清尾	合計
	選手氏名								
優勝	竹脇大樹	1	3	2	1	2	2	1	5
2位	川元翼	2	4	3	2	1	1	3	7
3位	マハト・アディテヤ・クマル	3	1	4	3	3	3	2	9
4位	田中ルーク	4	2	1	4	4	4	4	12
5位	甲斐文雄	5	5	5	5	5	5	5	15
6位	岩川浩助	6	7	6	6	6	6	6	18
7位	藤井成幸	7	6	7	7	7	7	7	21
8位	芳賀竜太郎	8	8	8	8	8	8	8	24

ファイナル

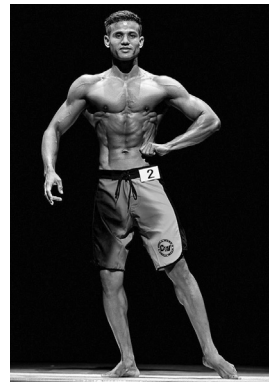
									総合計
鮫島	壽崎 (幸)	山田	中島	川名	井上	清尾	合計		
1	2	2	1	2	2	1	5	10	
2	3	3	2	1	1	3	7	14	
3	1	4	3	3	3	2	9	18	
4	4	1	4	4	4	4	12	24	
5	5	5	5	5	5	5	15	30	
6	6	6	6	6	6	6	18	36	
7	7	7	7	7	7	7	21	42	
8	8	8	8	8	8	8	24	48	



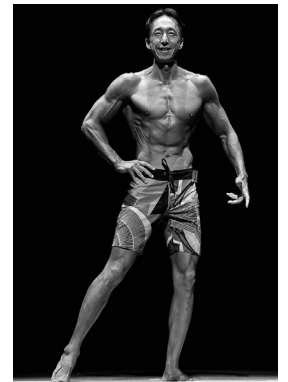
優勝 竹脇大樹



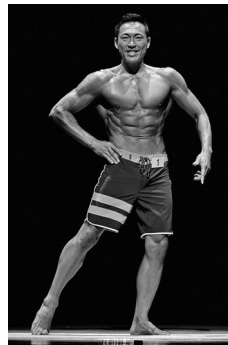
2位 川元



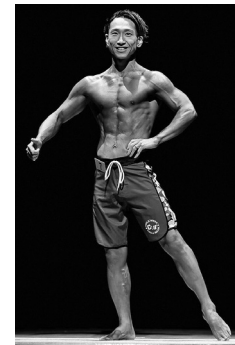
3位 マハト・アディテヤ・クマル



4位 田中ルーク



5位 甲斐文雄



6位 岩川浩助

東九州 ウィメンズ ボディシェイプ

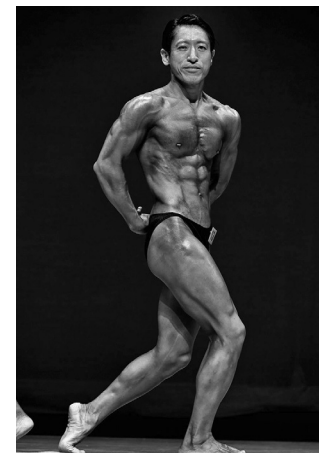


優勝 中山正子

東九州 メンズ ボディビル



優勝 マハト・アディテヤ・クマル



2位 植田修平

福岡 メンズ ボディビル

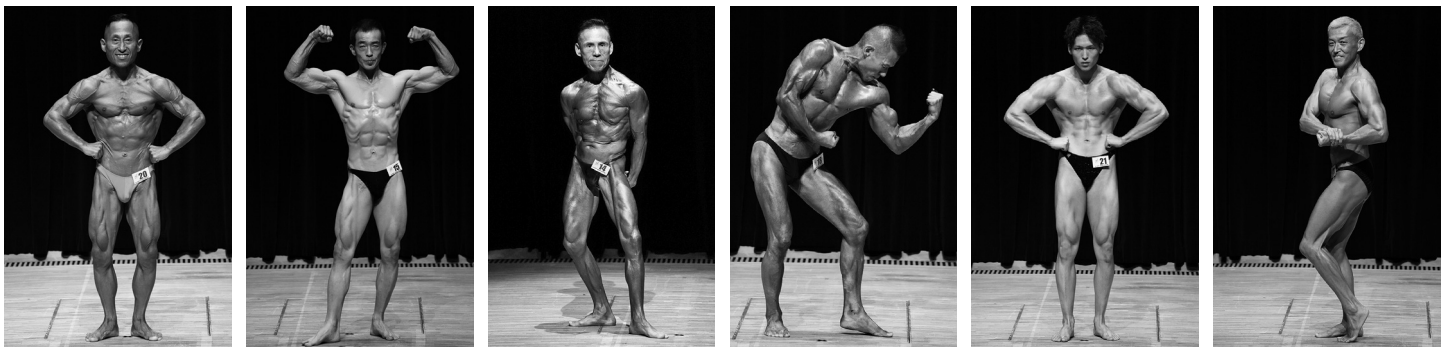
プレジャッジ

順位	審査員氏名		壽崎	山田	中島	川名	井上	合計
	選手氏名							
優勝	浅海 達也	1	1	1	1	1	1	3
2位	坂 剛典	2	2	2	2	2	2	6
3位	関 一志	3	3	3	3	3	3	9
4位	森山 裕一	4	5	6	4	4	4	13
5位	松永 翔太	7	6	5	5	5	5	16
6位	板谷 英之	6	7	4	7	6	6	19
7位	鳥谷 彰	9	4	8	6	8	8	22
8位	藤本 義和	10	8	7	8	7	7	23
9位	細矢 洋	5	9	10	10	9	9	28
10位	山崎 翼多郎	8	10	9	9	10	10	28

ファイナル

		壽崎	山田	中島	川名	井上	合計	総合計
	2	1	1	1	1	1	3	
	3	2	2	2	2	2	6	12
	1	3	3	3	3	3	9	18
	4	4	5	4	4	4	12	25
	7	6	6	5	5	5	17	33
	6	9	4	7	6	6	19	38
	9	5	8	6	8	8	22	44
	10	10	7	8	7	7	25	48
	5	7	10	10	9	9	26	54 ⁽⁸⁴⁾
	8	8	9	9	10	10	26	54 ⁽⁹⁰⁾

☆同点数 9位 細矢 10位 山崎 (最高点数、最低点数のカット無の点数で決定)



優勝 浅海 達也 2位 坂 剛典 3位 関 一志 4位 森山 裕一 5位 松永 翔太 6位 板谷 英之

福岡 ウィメンズ ボディシェイプ

プレジャッジ

順位	審査員氏名		壽崎	山田	中島	川名	井上	合計
	選手氏名							
優勝	中山 正子	1	1	1	1	1	1	3
2位	藤本 典子	2	2	3	2	2	2	6
3位	川村 麻子	3	3	2	3	3	3	9

ファイナル

		壽崎	山田	中島	川名	井上	合計	総合計
	1	1	1	1	1	1	3	
	2	2	2	2	2	2	6	12
	3	3	3	3	3	3	9	18



優勝 中山 正子



2位 藤本 典子



3位 川村 麻子

福岡 メンズ フィジーク

プレジャッジ

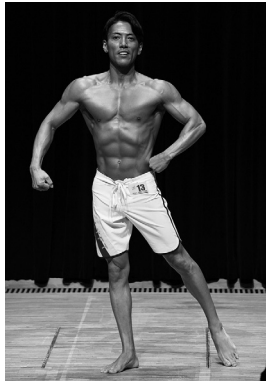
順位	審査員氏名		壽崎	山田	中島	川名	井上	合計
	選手氏名							
優勝	藤森 諒兵	1	1	1	1	1	1	3
2位	中尾 洋佑	2	2	2	2	2	2	6
3位	鳥谷 彰	3	3	5	3	3	3	9
4位	森本 和暉	4	4	3	5	5	5	13
5位	水野 聖来	5	5	4	4	4	4	13
6位	安武 智行	6	6	6	6	6	6	18
7位	宮崎 景介	7	7	7	7	7	7	21

ファイナル

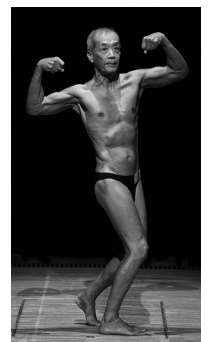
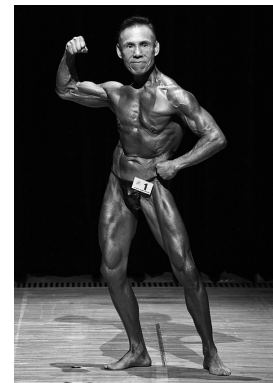
審査員氏名	壽崎	山田	中島	川名	井上	合計
1	1	1	1	1	1	3
2	2	2	2	2	2	6
3	3	3	5	3	3	9
5	4	4	4	4	5	13
4	5	3	5	4	4	13
6	6	6	6	6	6	18
7	7	7	7	7	7	21

総合計
6
12
18
26 (43)
26 (43)
36
42

☆同点数 4位 森本 5位 水野 (最高点数、最低点数のカット無の点数でも同点数の為、最終決定は審査委員長の特点を有利として順位を決定)



優勝 藤森 諒兵 2位 中尾 洋佑 3位 鳥谷 彰



優勝 関 一志 2位 岡野祥久

鹿児島 メンズ ボディビル

プレジャッジ

順位	審査員氏名		壽崎	山田	中島	川名	井上	合計
	選手氏名							
優勝	関 一志	1	1	1	1	1	1	3
2位	岡野 洋久	2	2	2	2	2	2	6

ファイナル

審査員氏名	壽崎	山田	中島	川名	井上	合計
1	1	1	1	1	1	3
2	2	2	2	2	2	6

総合計
6
12

理事長 (審査委員会委員長) からの提言

- ★今大会もコロナ禍で出場選手の確保に苦勞し、観客も入場制限で少なかったが、感染防止対策には最大の注意を払い、全日本大会を毎年継続して開催出来た事は大変喜ばしい事であった。
- ★今大会もポージングが上手でアピール性の高い選手も何名かはいたが、毎年、毎回お願いしているポーズの研究と練習が必要。上手な選手を参考にしたり、振付の指導を受けるなどしてレベルアップしてほしい。足の位置、上体のひねり、審査員及び観客へ見せる角度と選曲、曲とのマッチ、リズム感など自己の表現力をアップし観客を魅了してほしい。
- ★ナチュラル 100%の理念の下、ドーピングテスト・尿検査 (オリンピックで禁止されているタンパク同化ステロイド、利尿剤、興奮剤、β-ブロッカー) を審査員の投票により、福岡・鹿児島大会で3名の選手、九州・東九州大会で2名の選手、全日本・関西大会で6名の選手に実施。検査結果は11名の選手全員陰性でした。
- ★本連盟の理念を理解、賛同して頂き新加盟、及び選手が多数大会へ出場するよう組織拡大及び正しいボディビルディングの普及、発展の為に役員、選手は一致団結して活動致します。
- ★本年度、本連盟で初めてウイメンズ ビキニの categorie を関西大会で実施しました。今後女性の選手が多数大会へ出場する事を願っています。

WORLD NATURAL BODYBUILDING FEDERATION
WNBF
World Champion Ships
2022年11月19日 (土)
アメリカ・カリフォルニア州 サンペドロ
ワーナーグランドシアター

WNBF ワールド チャンピオン シップスへ ANNBBF から 3 名の選手が出場。
WNBF は大会の前に、ポリグラフ (嘘発見器) テストが行われる。ポリグラフテストをパスする事により世界大会の出場が許される。ポリグラフテストと従来行われるドーピングテスト (尿検査) により、殆どの禁止薬物の検出及び過去 10 年間禁止薬物を使っていない事が証明される。日本から出場の 3 選手も無事にテストをパスし大会に挑むことになった。

プロ部門・メンズフィジーク (ミディアムクラス)
10 位 笠井大輔 (23 歳)

全日本大会で優勝し、プロ資格を取得した笠井選手は初めてのプロ戦に挑んだ。骨格と筋量に恵まれた身体は、他国のプロ選手と比べてもアウトラインは互角であったが、絞りが甘く、プロ初戦は 10 位という結果に終わった。世界大会においては骨格、筋量は当たり前で、それに加えて絞り込まないと、戦えないことを肌で感じたと思う。23 歳と若い選手なので今後に期待したい。



アマ部門・メンズフィジーク (ミディアムクラス)
6 位 崎田勝紀 (41 歳)

全日本大会では 2 位と惜しくもプロ資格取得とはならなかったが、絞り込んでサイズを犠牲にした全日本から 1 ヶ月、少し筋肉の張りを取り戻したように感じたが、大会出場選手のサイズが予想以上に大きく、苦戦を強いられる。コンディションは良かったが、やはりサイズの差で 6 位という結果に終わった。来年は再び全日本大会でプロ資格を取りに行くという事なので、年齢的に大変だと思うが更なる筋量アップを期待したい。

アマ部門・ウイメンズビキニ (ショートクラス)
7 位 水野美穂 (39 歳)

関西大会で優勝し、本連盟初のビキニ選手の世界大会挑戦となった。コンディションは良くポージングも安定していたが、骨格に恵まれた海外の選手と比べるとアウトラインで見劣りしてしまう。ビキニ部門は骨格などの先天的な素質の優位性があるのは否めない。プロ部門 マスターズクラスの優勝選手はアジア系で、トータルパッケージに優れた選手が評価されたので、彼女にもまだ可能性がある。次回は特に背幅の広がりをもっと良くして優勝を目指して欲しい。



複数の選手が世界大会に出場したのは、ここ何年かぶりで、出場選手のレベルがより高くなったおり、結果は各選手にとって決して満足のものではなかった。世界レベルを肌で感じ視野が広がる事で今後の成長が期待出来ると思う。今回心温まる歓迎をして頂いた WNBF 会長 Tina Bell 氏と Bob Bell 氏に感謝の気持ちを送りたい。

(レポート 国際・ドーピング委員会委員長 井上大輔)